

地域経済振興に向けて

岡野一男議員

○圏央道インターチェンジ周辺
の整備について

質問 常総市都市計画マ

スタープランの中で水海道インターチェンジ周辺地区は産業機能の導入と広域的な複合物流拠点としての整備を図り、新たな産業拠点を農産物等流通促進を進めるとある。整備計画で平成24年度完成予定とはいえ、周辺整備は開通までに完成していなければ効果は期待できない。

①農工商三位一体で発展してきた本市には、各分野でさまざまな特産品がある。地域経済振興のため、行政が積極的に「道の駅」的な施設を作るべきと考えるが、そのような考え方はあるのか。

②民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律の成立後、各地で民間資金を活用した社会資本の整備がされてきているが、本市では、民間資金等の活用による公共施設の整備について検討した経緯

はあるか。

答弁(企画総務部長) 圏央道

(仮称)水海道IC周辺物流拠点整備計画に伴う整備方針については、開発地周辺の農業生産環境と集落生活環境の調和がとれた、常総市とその周辺地域の農業生産力拡大に貢献できる農産品処理・貯蔵・加工施設等と、これら施設の産物の販売に係わる「道の駅」的な施設や物流施設等を整備する方向で、昨年度整備計画書を策定。

本開発計画を具現化するためにあたっては、開発予定区域が全体約62haに及ぶ大規模な地域となるため、土地利用規制上の基準を満たすことをはじめ、進出することが確実な企業を選定し事業計画を策定しなければならない。

しかし現状としては、開通時期が不確定で、また長引く不安定な社会情勢の影響もあり、本地区に立地を希望する企業が無いため、現時点で具体的な事業計画

を策定することは困難。

今後は圏央道整備の進捗状況と景気回復の動向を踏まえながら、これら優良企業の発掘のため、立地企業への税制面の優遇制度の検

渋滞緩和と早期改修工事を望む！

篠崎孝之議員

○県道下妻常総線について

質問 県道下妻常総線の下妻地区は拡幅改良工事が全面的に実施され、中央線が引かれ、すれ違いも楽々できるが、豊田地区から道幅が狭くなり、水海道地区に入っても延々と狭い道路が続く、すれ違いが非常に困難な状態である。下妻地区の人々は学園方面に行くときに使用するため、朝の通勤時は大渋滞となる。拡幅改修工事の予定はあるのか。市として県へのはたらかかけはしているのか。

次に、県道下妻常総線と県道土浦境線との交差点は、先に述べたとおり、朝、北から学園方面に左折する車が非常に多く、逆に南から学園方面に右折できない、曲がれないといった状況である。その原因の一つ

討やトップセールスを含めた積極的な企業誘致活動を展開していきたい。

〈その他の質問事項〉

○あすなろの里の今後の運営形態について。

が北から左折するとき鋭角になっていてスムーズに曲がれない。つまり隅切りをしていない構造上の問題もある。一日も早い改修工事が望まれるがどうなっているのか。

答弁(企画総務部長) 県道下妻・常総線は、下妻市を起点とし、新井木町の小貝川に架かる大和橋に至る路線で、沿線添いには人家が密集し、幅員が狭く、しかも屈曲しているところが多い状況。市内では、五箇、大生地区の一部で改良されているが、大部分が未改良のままである。

常総工事事務所に問い合わせたところ、現在の拡幅改修工事及び並行してのバイパスの計画はないという回答であった。今後もし引き続き、危険箇

所、狭隘箇所の改修について、県や常総工事事務所に強く要望をしていく。

次に、県道下妻・常総線と県道土浦・境線との交差点は斜めに交差し、特に豊田方面からつくば市方面へ左折する場合、鋭角になっていて非常に曲がりが悪いことから、利用客の要望が多く毎年、土浦・境線整備促進期同盟会で常総工事事務所に對し、交差点改修も含めた要望活動を実施。この交差点については調査をしながら検討するという回答を得た。

今後も、拡幅改良及び交差点改修の早期実現に向けて、県当局へ積極的な働きかけをしていく。

○〈その他の質問事項〉



下妻常総線